

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野雅人

プーチンの政策構想(2):「ロシアは挑戦する－我々が直面する課題」

1. はじめに

プーチン首相は大統領選挙キャンペーンの一貫として、選挙プラットフォーム「プログラム 2012－2018」¹に続き、自らの政策構想に関する論文²を断続的に新聞紙上等で公表している。本稿は1月にイズベスチヤ紙に投稿された「ロシアは挑戦する－我々が直面する課題 (Россия сосредотачивается – вызовы, на которые мы должны ответить : Russia muscles up – the challenges we must rise to face)」について報告する。

2. 概要

この論文は一連の論文の第1弾として、ソビエト崩壊後、プーチン氏が政権を握って以降の時期を振り返り、復興と安定ともたらしたという自らの実績を強調するとともに、その間に生じたロシア社会の変化に対応して、今後はどのような課題に取り組むかを簡潔に述べたものである。

ロシア社会の過去10年間の大きな変化として、中産階級が台頭したことと、「教育革命」すなわち高等教育を受けた若年層の飛躍的増加を上げ、これらの層の要求に対応できる職の確保、具体的にはイノベーションをベースとした2,500万の雇用創出、そして個人の自由の拡大、社会参加の支援などを課題としている。また、今日の西側経済の問題点を踏まえ、格差是正と貧困撲滅を通じて公正な社会を実現することも重視されている。

外交的課題については、2008年の危機以降の世界経済の停滞や新興国の台頭によるパワーバランスの変化によって、世界は構造変革の時期に入ったという認識を示し、その中でロシアは国際協調を基本とし、ヨーロッパにはない東方との歴史的関係を持つ国家として役割を果たし、存在感をたかめていくべきとの考が示されている。

¹ 内容の詳細については、ロシア関連メモ No.84 「プーチンの政策構想(1) : 『プログラム 2012-2018』」ご参照 http://www.cipps.org/group/russia_memo/084_120208.pdf

² 本件論文の他、「ロシア：民族問題」(1月23日)、「経済的課題」(1月30日)、「民主主義と政府の質」(2月6日)、「正義の構築：ロシアの社会政策」(2月13日)が公表されている。

そして、国内と国際関係の両面で「ポスト・ソビエト」期が完全に終了したことを宣し、その間の経験をもとに政治改革、社会保障とセーフガードシステム構築、正義と個人の尊厳を守る国づくりを通じて国家を繁栄に導くこと、それこそがプーチン氏が大統領選挙に再び立候補した理由であると述べられている

3. コメント

この論文が公表された時点では、既にモスクワを始めとする国内各地で議会選挙不正に抗議し、反プーチンを掲げるデモが行われており、論文中にはそのような状況を踏まえた記述も見られる。プーチン氏は「大統領選挙以降、将来に向けて何をなすべきかという議論がなされていない」として、反プーチン勢力を体制変革のみを求め具体的政策論がないと暗に批判し、それに対して自分は明確なビジョンを提示するという立場からこの論文を起草している。

反プーチンのデモは、ロシアで初めて中産階級が政治的意思表示を行ったものとされるが、プーチン氏も論文中で中産階級の拡大をロシア社会の大きな変化として認め、それに対応した政策、国家づくりを基本とする姿勢をしめしていることが注目される。

文末に今後より詳しい文書を出すのでそれをもとにさらに議論したいとの記述があるように、この論文では今後の目標としては項目に触れられているのみで、詳しい内容は別項にて明らかにされている。それらについては別途報告の予定である。

なお、論文中では 1990 年代の混乱期に、ロシアがいかに国家存亡の危機にあったかが繰り返し強調されており、それには、その状態から今日の安定と繁栄をもたらしたプーチン氏の実績を強調し、従来からの同氏の支持層に訴える狙いがあると見られる。

4. 試訳・抄訳

3月4日、ロシア国民は新大統領を選出するための投票を行う。現在国中で活発な議論が行われている。

議論のなかで最も重要な問題である、ロシアが直面せざるを得ないリスクと課題について、私の考えを述べる必要があると考える。それは国際政治及び世界経済に対する我々の立場である。我々は生起する事象に追随するのか、ルールを作り出す役割を果たすのか。いかなる資源を用いて我々の立場を強化し、停滞を脱して安定的発展を実現するのか。現代世界では、安定は不断の努力と変革への対応そして熟慮の上で改革を進めることによってのみ得られるのである。

ロシアの歴史上繰り返し生じた問題は、エリートが急激な変革すなわち持続的発展ではなく革命を求めたことである。ロシアで世界でも、そのような激変、ショック療法がいかにも有害だったが、創造ではなく破壊をもたらしたかは経験から明らかになっている。

だが、ロシアではそれによって逆の傾向、すなわち変革の拒否－惰性・依存的性向、エリートの競争力欠如、そして汚職蔓延という弊害が生じていることもまた確かである。そのような「反抗者」たちは我々の目の前で「独善的上流階級」、改革の抵抗勢力となり自分の地位と特権を守るのみに熱中している。

その結果、政治及び政策が場当たりの的で、現状維持や既存権限や財産の保持及び再分割に墮している。

このような状況は、ロシアでは歴史的に政策決定者に対する国民によるコントロールが弱く、ロシアの市民社会が未発達なことの結果である。その状況は徐々に改善しつつあるが、極めて遅々としている。

政策が大多数の国民に受け入れられ、その内容に国民の利益が反映されなくては、真の民主主義は存在し得ない。確かに受けのいいスローガンやまばゆいばかりの将来ビジョンを唱えることで社会の支持を得ることは短期的には可能だが、それによって国民が自らの将来像を描くことができなくなれば、彼らは結果的に政治や社会変革に背を向けるようになる。これは歴史上何度も起こったことである。

今日、国民は政治プロセスの再活性化について様々な形で議論している。しかし、何が議論の対象なのか。国家権力の再構築？権力を「より良い人々」に与える？そしてどうするのか。

私は大統領選以降、将来に向けて何をなすべきかという実質的議論が行われていないことを危惧している。それは国益につながらず、社会的発展の質や教育基準、責任感の向上にも資することがない。

私は、ロシア国民は政治家個人の長所や短所だけでなく、リーダーが実行しようとする政策やプログラムの中身も議論すべきだと考える。プログラムの課題と目標、いかにして国民の生活水準を高め、公正な社会と社会的経済的発展を実現するのかを議論しなくてはならない。

我々には未来、優先課題、長期的選択、国家の発展と繁栄についての幅広い対話が必要である。

我々の位置と方向性

今日のロシアの社会経済発展基本的指標について言うと、ロシアは全体主義・社会主義ソビエト崩壊後の深刻な景気後退から脱出した。2008～2009年の危機によって丸2年を失ったが、その後旧ソ連期最高の指標を上回った。一例として、ロシア人の平均寿命は旧ソ連時代の1990～1991年当時より長くなった。

国民の努力の結果、ロシアの経済発展は持続し、国民の収入増加と機会拡大がもたらされた。1990年代と比較して貧困率は150%以上下落した。就業可能な人々が職を得られず何ヶ月も収入がない「貧困地域」は基本的に過去のものとなった。ロシア人5人中4人の収入がソ連邦時代の「ピーク」である1989年（その後国家全体の後退と不均衡が拡大した）を上回ったという調査結果もある。今日ロシアの80%以上の家計がソビエト期の家計消費を上回っている。家電普及率は50%向上し先進国の水準に到達した。半数の家庭が自動車を保有するようになった。これは同じく3倍である。住環境も明らかに改善した。ロシア国民全体も年金生活者も90年代より多くの基礎的食料を消費している。

しかし、過去10年間において特に重要なことは、ロシアに西側で中産階級と呼ばれる層が台頭してきたことである。彼らの所得水準は消費と貯蓄、何をかうか、休日をどう過ごすかといった選択が可能な水準に達している。彼らの職業の選択肢も増え、同じく蓄えも増えた。

また、中産階級は政治選択をできる層である。彼らは概して教育水準が高く、投票も感覚ではなくよく考えた上で候補者を選んで投票する。中産階級は様々な領域において自らの要求を主張し始めている。

1998年当時中産階級は人口の10～15%で、これは旧ソビエト末期より少なかった。今日では人口の20～30%を占めると推定される。彼らの収入は90年当時の平均収入の3倍となった。

中産階級はさらに拡大している。彼らはロシア社会において多数派となり、国家の生命線である医師、教師、エンジニア、熟練労働者も含まれている。

ロシアの大きな希望は国民の教育水準の高さと、何よりも若さである。教育システムの質に対する批判や問題はあることは認めるが、これは間違いないことである。

25～35歳のロシア人の57%が高等教育を受けている。同水準の国は日本、韓国、カナダの3カ国だけである。教育需要はさらに高まっており、15～25歳の次世代は80%以上が高等教育課程にあるか卒業している。これは世界でも最高水準にある。

我々は全く新しい社会的現実足に足を踏み入れようとしてる。「教育革命」はロシア社会とロシア経済の特徴を根本的に変えようとしてる。現在のロシア経済が左程多くの教育の高い労働者を必要としないとしても、この現実はもはや後戻りできない。現在の経済と労働市場の構造に彼らを適用させるのではなく、教育水準が高く、要求水準も高い人々が価値を見いだせる仕事に就けるように経済を変革しなくてはならない。

ロシアの大きな課題は、若い世代の「教育の力」を活かし、中産階級の強まる要求と自らの幸福のための責任感を、経済成長と国家の持続的発展につなげることである。

教育水準の高い人々は、寿命が長く、犯罪や非社会的行動が少なく、合理的選択をする。このことは我々の未来の好ましいバックグラウンドとなる。

しかし、これだけでは不十分である。

過去 10 年間に於いてロシア人富が安定的に増加したのは、主に資源輸出収入の合理的配分等の政府の施策の成果であった。石油準備金は国民のために使われ、数百万の人々が貧困から脱却した。さらに危機や災害の備えもできた。しかしこの資源ベース経済の潜在力は枯渇しつつあり、もっと言うとも未来はない。

経済の多様化と新たな成長源創出という目標は、既に 2008 年から我々のプログラムや政策文書に現れている。

イノベーションを基盤とする経済は、すべての教育水準が高く責任感ある国民のために必要であり、そこでは彼らが専門家、経営者、そして消費者となる。

今後 10 年間、1,000 万～1,100 万の若者が経済的に自立するが、そのうち 800～900 万人が学位取得者である。今日、500 万の大卒者が自分の収入、職業、キャリア展望に不満を持っている。公的機関に雇用される 200～300 万人が転職を考えている。さらに 1,000 万人が旧式の技術・設備しかない企業で働いている。古い技術は歴史とすべきである。それは競争力が無いだけでなく労働者の健康や環境に被害を及ぼす。

これに関連して教育あるロシア人のために 2,500 万のイノベーション・ベースのハイテク関連雇用創出について語ることは、言葉の遊びではない。それは絶対に必要なことであり、最低限達成しなくてはならないことである。この国家的優先課題は、国家政策及びビジネス戦略の焦点とすべきである。この点においてロシアのビジネス環境をさらに改善しなくてはならない。

私はロシアの現在及び将来の労働人口の潜在力は、十分に国際競争力があると確信している。そし

て将来のロシア経済は、社会的なニーズも満たさなくてはならない。高い収入を保証し、職業機会の拡大と社会的進歩を実現しなくてはならない。

GDP、準備金、格付け、先進国間のロシアの順位といった数値だけではなく、以上のすべてがロシアの成長の基準となるべきである。国民が、機会拡大というプラスの変化を実感することが第1に重要なことである。

同時に個人のやる気が真の成長促進力とならなくてはならない。政府の決定、限られた投資家、国営企業だけに過度に依存すれば必ず失敗する。ロシア人の多くが受け身のままでは間違いなく失敗する。

それ故、今後10年間のロシアの力強い成長は、国民1人1人の自由の拡大も意味する。明確な意思決定と責任を伴わない他人からもらうような富は、21世紀においてはもはや問題とならない。

そこにもう1つの問題がある。社会契約や慈善的精神による給付は、ロシア国民の相互信頼の欠如、公益のために力を尽くさないこと、相互の思いやりがないこと、個人の利益を犠牲にしないことなどを覆い隠すレトリックとして使われてきた。これは旧くからのロシア社会の重大な問題である。

ロシア文化には、国家や公的利益と国家のニーズの尊重という長い伝統がある。圧倒的多数のロシア人は強い祖国を望み、自分達も守る国家的英雄を尊敬する。残念ながら国民の母国に対する誇りと愛国心が地域の政策決定への関与、司法による権利擁護、真の慈善活動といった日常的行動に結びつくことがほとんどなかった。

このような行動様式は、無関心や身勝手さによるものではなく、自信のなさや他者に対する不信の表れであった。

しかし、徐々にではあるが変化の兆しはある。人々は自らのあるべき姿を正統化するという形ではあるが、政府に要求する以上のことを始めている。人々は近隣の環境改善、障害者支援、子供たちのレクリエーション活動等に役割を果たすようになってきている。

2012年、政府はこのようなイニシアティブ支援を開始する。社会的NGOを支援する連邦及び地方のプログラムが採択された。このようなプログラムは今後さらに拡大される。しかし、プログラムが機能するためには役人の市民活動家に対する根強い偏見を克服しなくてはならない。この偏見は実は役人が金を出したがることや競争と責任を回避したがる性向を反映するものである。

ロシアでは、ロシア正教、イスラム教、ユダヤ教、仏教などが広く信仰されているが、事実、宗教は国民が対立を克服し、社会の急速な成長に伴って生じる紛争を平和的に解決しようとする上で重

要な役割を果たしている。学校やメディア、TV、インターネットコミュニティにも重要な貢献が可能であり、求められている。

独立した個人から構成される社会は、孤立し、公的利益に無関心で強欲なエゴイストの群れとは異なる。ロシアにはそのような人々は存在しない、今度も現れないだろう。個人の自由は他人を尊重することで生産的なものとなる。モラルを基づかない自由は無秩序につながる。

国民相互信頼は、共通の価値と優先順位を基盤に団結する社会、人々が信仰心と誠実さ、構成の観念を持った社会においてのみ醸成される。

ロシアの社会の将来像について語る場合、1つの決定的に重要な要素について言及しなくてはならない。現在国民の10～11%が様々な理由から貧困ライン以下で生活している。この問題を10年以内に解決しなくてはならない。貧困を克服しなくてはならない。貧困は発展した国家では受入れられない。国家の資源と社会の最も活動的で献身的な人々の努力をこれに傾けなくてはならない。社会的援助が必要な人々に行き渡るよう慈善的活動を支援しなくてはならない。

ロシアは人々が貧困から脱出できるような流動性の高い社会システムを構築しなくてはならない。それは現代社会に必要なシステムである。我々は、資本主義の長い歴史を持つ国々が学んできたように、市場経済の社会への負の影響を補償し、格差を是正する方法を学ばなくてはならない。貧困家庭の子供に教育を受けさせること、低所得家庭に住宅を提供すること、障害児に対する差別をなくすこと、生活必需品とよい仕事への平等なアクセスを保障することへの支援が必要である。社会の構成員が公正な社会だという確信を持って初めて、ロシア社会は成功に満ちたものとなる。

世界の発展の新段階

2008年に起こった世界的危機はすべての人に影響を及ぼし、我々も多くのことを見直さざるを得なくなった。

経済危機が循環的要素や規制の失敗だけが要因で発生したのではないことは周知の通りである。問題の根源はインバランスの蓄積にあり、それによって無制限な借入、借金まみれの生活、未来の犠牲、虚像の価値や資産をベースにした先進国のモデルが苦境に陥った。モデルがもたらした繁栄が国や地域で過度に偏っていた。世界の安定が損なわれ、紛争要因となり、国際社会が重要かつ根本的問題について合意できる能力が弱まった。

まやかしの原則が経済だけでなく政治や社会領域にも広まった。先進諸国の危機は危険で、私の考えでは純粹に政治的な傾向を露見した。それは労働生産性の向上に全く無関係に、見境なく国家の

社会的義務を強調するポピュリスト的傾向であり、さらに国民の一部に社会的無責任を生んだことである。しかし、今や他人の努力によって得た繁栄の時代は終わったことが明白になった。

誰も自分の資力を超えて生活することはできない。このことはロシア人にも完全にあてはまる。

我々は中身の無い約束はしていない。我々の経済政策は良く検討され用意周到なものである。危機の前、我々の経済は大きく成長し、債務を弁済し、国民の実質所得は増加し、危機において国民の生活水準への影響を最小限に食い止めた準備金を蓄えることができた。さらに、我々は危機のさなかにおいても年金やその他の社会的支出を増加させることができた。特に野党勢力の多くの人が石油準備金を支給取り崩すことを要求していたが、もし我々がそのようなポピュリストの言うことを聞いていたら年金生活者はどうなっていたことか。

残念なことに最近の議会選挙キャンペーンにおいて多くのポピュリスト的言辭が聞かれる。大統領選挙戦でも、選挙に勝つ見込みがないので実現する義務もない約束を勝手にしている人達がいる。我々は国民の生活水準を向上させるためにあらゆる機会を積極的に活用しなくてはならないが、以前のようにやみくもに行動してはならない。それによって我々は西側諸国の一部で起こったように、国民に与えた以上のものを取り返さなくてはならないという事態に直面することがないようにしなくてはならない。

現在の国際的な格差は既存システムでは対応不能なほど拡大していると言わざるを得ない。市場変動が克服可能であることは確かである。多くの国々が危機に対する一連の緊急対策措置を行ったが、効果は国によって様々である。

しかし、より深い長期的な意味において言うと、現在の問題がマーケットの不安定性に起因するものではないことを認めざるを得ないだろう。今日の世界が直面する問題はシステミックな危機であり、今世界は構造変革の時期にある。文化、経済、技術そして地政学の新しい時代へ移行する兆候が明確に表れている。世界は長く苦痛に満ちた混乱の時代に入っている。我々は幻想を持ってはならない。

ソビエト連邦崩壊後 20 年間に構築された世界システムの覇権主義的事象を含む結末は明らかである。以前のような単一のパワーセンターの力だけではもはや世界の安定を維持することができない。しかし新たなパワーセンターはその役割を引き継ぐ準備ができていない。世界経済の動向と軍事的政治的情勢はさらに予測困難となり、そのため国連安全保障理事会構成国や G8、G20 諸国等の確固たる協力関係を通じて対処する必要性が高まっている。我々は相互不信やイデオロギー的偏見、近視眼的自己利益を克服する努力を怠ってはならない。

世界経済システムの発展と安定とは逆に、世界の最大の経済センターはさらに多くの問題とリスク

を発生させている。社会的、民族的、文化的緊張が急速に高まっている。破壊的勢力が急速に力を強め、世界各地でその攻撃的性格を表し、安定を脅かしている。「民主主義を輸出する」ために軍事力を行使した国々がしばしばこれらの破壊的勢力の協力者となっている。

いかなる高貴な意思も国際法違反と国家主権の侵害を正当化することはできない。一般的に当初の意図は達成されず、最終的には予想を大きく超えたコストがかかることは経験が証明するところである。

この環境下において、ロシアはロシアの文明モデル、偉大な歴史、地理、そしてヨーロッパ文明の基本原則と経済的・政治的影響力を急速に高めている東方との幾世紀にも渡る協力の歴史を統合した文化的「遺伝子（ゲノム）」を有する国としてその役割を果たすことができず、また果たさなくてはならない。

ロシアはこの世界的転換期をどのように理解すべきか。

1990年代、ロシアは体制の崩壊と劣化という深い衝撃を経験し甚大な社会的損失を被った。その結果不可避免的に国家としての地位も低下した。我々は限界点に近づいた。事実、数千のゲリラ勢力が数百万の武装勢力でロシア国家を攻撃しようとしていた。もし外的勢力の援助があったら状況はさらに悲劇的になっていた。多くの国民がロシアは完全に破壊されたと信じていた。

私は FSB（ロシア連邦保安局）が傍受した1つのメッセージをよく覚えている。それは北コーカサスのカタブの、ロシア国民を殺害した最も凶悪なテロリストの1人が外国の仲間に送ったものである。それは「ロシアはかつてないほど弱体化している。今こそ北コーカサスをロシア人から奪い取る千載一遇のチャンスだ」というものだった。しかし、そのテロリストは計算を誤った。ロシア軍はチェチェンや他のコーカサスの人々の支援を受け、領土の不可侵性とロシア国家の統一を守ったのだ。

しかし、我々は国家を苦境から救い、ロシアの地政学的地位を回復し、社会システムを再構築し、経済を再活性化させるために、途方もない努力とリソースを費やした。そして、我々は基本的に国家としてのガバナンスを回復した。

我々は国家自体の権威と力を回復しなくてはならなかった。我々は深く根差した民主的伝統も、人気のある政党も、成熟した市民社会も存在しないところから、地域的分離主義やオリガルヒの影響力、汚職そして時には闇社会の犯罪と政府機関が公然と結びつく事態と闘いながら再生しなくてはならなかった。

このような状況の下では、国家の統一性を維持すること、即ち特定の個人やグループの支配ではな

くロシアの主権を確立することが最優先課題であった。

それがいかに困難なことだったか、その決断にどれほどの努力を要したかを覚えている人は少ない。また、1990年代後半において最も信頼できる専門家達も、多くの世界のリーダー達も、ロシアの未来は破産と崩壊しかないと予想していたことを思い出す人も今や少なくなった。今日のロシアの姿は1990年代のプリズムを通して見ると、あまりにも楽観的で信じがたいものだろう。

しかし、事実この「忘却」と、社会が生活の質と民主主義の最高の水準を求めるようになったということこそが我々の成功のしるしである。

ロシアが世界経済危機を乗り越えることができたのも、まさにこれまでロシア国民全員がこのような困難で緊急の問題を解決する長い道を歩んできたからである。そして今、我々は戦略と展望について語るができるのである。

復興の時代は終わった。ロシア及び世界史におけるポストソビエト期は終焉を迎えた。

新しい基盤を持ち、新たな質的水準にある進歩のための必要条件は全て整っている。外交も世界的経済状況も厳しい局面を迎えているが、もはや回避できない国際秩序転換は我々に大きな機会を提供している。

私がなぜ再び2012年の大統領選挙に立候補することに同意したかをもう一度述べよう。私はロシア国家の再生の過程における個人の貢献を決して軽視してはいない。多くの人々が関わってきた。1999年に私が首相に就任しその後大統領となったとき、我が国は厳しいシステミックな危機にあった。そして国民の謙虚な奉仕者で同志達が、共通の目的のもとに団結した国民の支持を得て、ロシアが内戦に突き進むことから救い、テロリズムを弱体化させ、領土と憲法の秩序を守り、経済的復興を成し遂げ—我々に最も高い経済成長率と国民の実質収入の増加をもたらした。

今我々には、何が成功の要因だったか、今後何を改善すべきか、何を廃止すべきかが分かっている。

今後数年間の我々の目標は、国家の発展の全ての障害を取り除き、政治改革を進め、国民のための社会保障とセーフガードシステムを構築し、安定的で健全な国家機関を形成することである。主権を守り、今後数十年間にわたり国民の繁栄に導くことができる国、正義と個人の尊厳を守る国を造ることである。国家と社会の間には真実と信頼がなくてはならない。

多くの未解決の問題が残されている。新しい課題も次々を発生している。しかし我々はそれをロシアの利益のために利用できる立場にある。

ロシアは課題に委縮する国ではない。ロシアは力いっぱい挑戦し、強みを結集していかなる変化にも適切に対応する。ロシアはいかなる試練をも克服し常に勝利する。ロシアには未来へのビジョンを持った創造的で良心的な世代が育っている。彼らは既に産業、企業、政府機関そして国全体で指導的立場にあり今後も国家を導いていこう。

我々が今日の課題にいかに対応するか、我々強くなり、激しく変化する世界で我々の地位を高めるためにこのチャンスはどう活用するかは我々自身にかかっている。

今後数週間うちに、私はこの点に関するより詳しい文書を出し、それをベースにさらに皆と議論したい。

以上